

## 祝 辞

春の日差しが日に日に暖かく感じる今日の良き日に本科卒業生、専攻科修了生のみなさんご卒業ならびにご修了おめでとうございます。

保護者のみなさま、本日が大変よい日となりましたこと心よりお慶び申し上げます。

また、篠崎校長先生を始め教職員のみなさま、今日の卒業式まで学生のみなさんを全力でご指導・支えていただきましたこと、重ねて感謝申し上げます。

ここで私的なことを一言だけ。我が息子も本日晴れて卒業することが出来ました。廉大、おめでとう。

戻りまして、ここからは後援会を代表して一言お祝いの言葉を申し上げます。

私ども後援会がみなさんと接する機会はそう多くはありません。エピソードを交えながらいくつかのイベントについてお話しさせていただきます。

まずは、体育祭です。5年前に初めて入場行進を拝見したときのあまりの「ダラダラ感」には衝撃を受けました。入場行進の「ダラダラ感」は変わりませんが、毎年曲目の変わる「ダンシング玉入れ」でのダンスパフォーマンスの完成度の高さ、各科対抗での学年を超えた団結力、また年を追うごとに充実する競技種目、年々増加する観客数でもわかるとおり、みなさんが「体育祭」を呉高専を代表する素晴らしい行事のひとつへ発展させたのではないかと思います。

次は高専祭。これは言うまでもありませんが、最終日、最後を飾る打ち上げ花火に象徴される、みなさんが自ら企画・計画・実行し、そして後輩に引き継いでいく呉高専の伝統そのものだと感じています。私ども後援会も模擬店でのおでん販売と「大人の青春を奪わないでください」のスローガンで一昨年まで3回、森野前校長と共に決して高いパフォーマンスではありませんでしたが、「高専カラオケ」へ参加させていただき、幾ばくか花を添えさせていただきました。参加させていただくことで、みなさんの圧倒的な団結力と無限の可能性を身近に感じ、毎回パワーをいただき大変感謝しています。

最後にこの5年間で一番印象に残っているエピソードをお話しします。3年前の全国高専大会へ出場する選手の激励会に参加させてもらった時のことです。激励会が終わったあと全国大会に出場する陸上部の選手が私の方へ来られ「昨年度のクラブプレゼン審査で助成いただいたプログラムバイクで練習でき、全国に行けることになりました。」とお礼を言われました。全国に行けたのは本人の練習の賜物であり、決してプログラムバイクのお蔭ではありませんが、思わぬタイミングで感謝の言葉を聞くことができ、大変嬉しく幸せな気持ちになったことが今でも心に残っています。

さて、本日をもってみなさんは呉高専での学生生活を終え次のステージに進まれます。みなさんには呉高専で培った高い技術をベースに夢を持ってチャレンジしていただきたいと思います。失敗はつきものです。それがみなさんのキャリアとなります。キャリアは「軌跡」であり、上がったりがったりするものではなく「残す」ものです。みなさんには決して諦めることなく「自分の生きた軌跡」を残していただきたいと思います。強く思い、行動することを止めないでください。そうすれば、みなさんが呉高専で育んだ夢は高専祭の最後を飾る打ち上げ花火のように必ず実現します。

そして最後に、令和という新しい時代を支えていく平成生まれのみなさんへ、昭和のプロレス親父である私からアントニオ猪木の名言「道」を送ります。「この道をゆけばどうなるものか、危ぶむなかれ、危ぶめば道はなし、踏み出せばその一足が道となり、その一足が道となる。迷わず行けよ、行けばわかるさ。」みなさんご唱和下さい。行くぞー！1，2，3，ダー！勇気を出し、行動し、挑戦してください。

以上をもちまして私からのお祝い、感謝の言葉とさせていただきます。

本日はご卒業、ご修了、誠におめでとうございます。

令和2年3月20日  
呉工業高等専門学校 後援会会長  
藤野聖一